



吉野作造夫人のたまのが愛用したミシン
＝大崎市古川の吉野作造記念館で

母性保護論争を紹介

大正の女性と吉野作造展 大崎

大崎市古川の吉野作造記念館は今年が大正100年に当たるのを記念し「大正時代の女性と吉野作造」展を開いている。大正デモクラシーのうねりの中で平塚らいてうと与謝野晶子が展開した「母性保護論争」▽最初の普通選挙当時、婦人参政

権の早期実現を主張した市川房江の行動に吉野が苦言を呈したことなどを紹介している。「母性保護論争」は1918(大正7)年、出産・育児期の女性の生活をどう保障するかをテーマにした女性同士の大論争。歌人の与謝野は「女性が徹底的

に経済的独立を果たすべき」と主張。これに対し、雑誌「青鞥」主宰者の平塚は育児は社会的な仕事であり、「国庫による保護」を訴えた。世論は平塚への賛意が多かったという。

吉野の市川への苦言は普選法成立後の28(昭和3)年に行われた総選挙直前。市川は婦人参政権の実現を政策として掲げる既成政党の代議士に応援弁士を派遣する方針を打ち出した。無産政党の勢力拡大を図る吉野は否定すべき既成政党を利する行為と批判し、方

針撤回を求める書簡を市川に送った。だが市川は方針を曲げなかった。展示はこのような女性の権利拡充運動の曲折を紹介している。

吉野は男女の人格尊重に基づく家族愛を大事にした。吉野夫人のたまのが愛用したドイツ製ミシンも展示されている。3月4日まで。有料。連絡は同記念館(0229・23・7100)。

【小原博人】